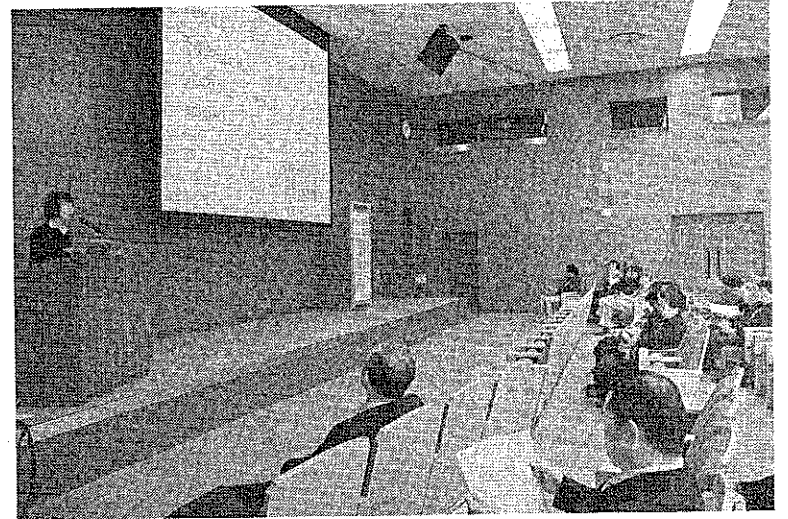


# 「不登校」テーマに公開講座



子供の問題に悩む親たちのための「お道のネットワーク」である「キッズネット天理」（田中善一代表・ひのきしんスクール後援）は11月25日、天理大学ふるさと会館で公開講座「思春期の不登校について」を開催。不登校の子供とその家族への関わり方について、特別支援教育士で、大阪Y.M.C.A.国際専門学校高等課程表現・コミュニケーション学科長の鍛冶田千文氏が講演した（写真）。

## キッズネット天理

キッズネット天理は、昨年2月に「ひのきしんスクール」が開いた子供の発達障害についてのシンポジウムを機に、同スクール運営委員の有志によって結成された。

公開講座では、田中代表（本部准員）の開講あいさつに続いて、不登校の子供を対象とするフリースクールを運営している鍛冶田氏が登壇した。

鍛冶田氏は、まず「不登校とは、さまざまな理由で子供たちが学校へ行っていない状態のこと。その原因の45％が人間関係にあるといわれている」として、なかでも、いじめによるものが多いことを説明した。

そのうえで、不登校のメ

カニズムに言及。行き渡りから、時々学校へ行く「さみだれ登校」となり、次第に発熱や腹痛などの症状が始めることを説明したうえで、「この時点で子供を病院へ連れていくと、自律神経失調症などと診断される場合がある。病名がつくと親はホッとするが、そこで問題がすり替わってしまう」と指摘。やがて、学校へ行きづらくなった子供の昼夜の生活が逆転し、「そこから家庭内暴力へ発展する例が少なくない。不登校を続ける子は常に罪の意識を感じている。その思いが、時には母親への暴力や自傷行為へ向かわせることもある」と解説した。

さらに、不登校の子供に

接する際のポイントについては「つい『なぜ学校に行かないの？』と聞いてしまいがちだが、『なぜ』という言葉には責める要素が含まれているので、子供は委縮してしまう。不登校の原因を追及するのではなく、『これからどうしていくか一緒に考えよう』と語りかけ、相手の心に寄り添ってほしい」と呼びかけた。

なかでも、親に対しては「子供が動きたすためのエネルギーを蓄えるまで待つことも大切」として、「その間、特に母親は、姑や親類、時には夫にまで『育て方が悪い』と責められ、つらい思いをするケースがある。信頼できる人や専門機関に相談したり、同じ問題を抱える親の会などに参加したりしてほしい」とアドバイスした。

また、不登校の子供の中には、注意欠陥・多動性障害（ADHD）や学習障害（LD）、高機能自閉症などの発達障害があるケースが少なくないことを指摘。「発達障害は見た目では分からず、周囲から『怠けている』『わがまま』と思われがち。社会性の欠如やコミュニケーションの問題で人間関係がうまく築けず、不登校になってしまう場合が多い」として、「発達障害」と言うが、その障害は周囲の環境がつくっているもので、周りの理解があれば、それは「特性になる」と述べた。

最後に鍛冶田氏は、不登校の状態から一歩を踏み出し、Y.M.C.A.に通い始めた子供たちの事例をもとに、「安心できる環境と人間関係によって、人は必ず変わる」と話し、講演を締めくくった。